



RSウイルス感染症

🔍 病気の説明 (どんな病気?)

RSウイルスが原因の呼吸器感染症で、夏から冬にかけて流行します。2歳までには、ほぼ100%の児が一度は感染するとされています。発熱、鼻水などの症状が数日続きます。多くは軽症で自然軽快しますが、重症化すると肺炎になることがあります。特に生後6か月以内では、より重症化しやすいといわれており注意が必要です。

🔍 予防 (感染はどう防ぐ?)

飛沫感染(咳、くしゃみなど)、接触感染(感染者の飛沫などに触れた手で、口・鼻・目などの粘膜を触ることによる)です。

潜伏期間は4~6日です。

予防には、子どもが日常的に触れるもの(おもちゃなど)をアルコールで消毒をする、こまめな手洗いやアルコールによる手指消毒が重要です。また、咳や鼻水などの症状がある場合は、マスクを使用することも大切です。



🔍 治療 (感染したときは?)

基本的に対症療法です。機嫌がよく、辛そうでなければ、慌てずに様子を見ますが、呼吸が苦しそう、食事や水分摂取ができない時は医療機関の受診をご検討ください。

🔍 登園・登校の基準

発熱、咳等の症状が改善し、全身状態の良い場合は登園・登校が可能です。ただし、引き続き手洗いを心がけましょう。

🔍 詳しく知りたい方は [RSウイルス感染症について | メディカルノート \(medicalnote.jp\)](https://medicalnote.jp)

🔍 横浜市の流行状況 [横浜市感染症情報センター 横浜市 \(yokohama.lg.jp\)](https://yokohama.lg.jp)

